

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 8 月 25 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	30.1 °C	4.0 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	38.2 °C	5.68 kPa g	A系： 0.02 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.02 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	36.3 °C	0.22 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	28.9 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	28.5 °C ※2
4号機	循環冷却システム	停止中	27.3 °C ※3

※1 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドにヒドラジンの注入を適宜実施。

※2 3号機使用済燃料プール代替冷却システム停止中の為、燃料プール水温度に関しては至近のデータを記載。(8/25 5:00 現在)

※3 4号機使用済燃料プール代替冷却システム停止中の為、燃料プール水温度に関しては至近のデータを記載。(8/24 23:00 現在)

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った 45°C を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

5/16 当該撤去作業に用いるクローラクレーンに不具合が確認されたため、現在、当該撤去作業を中断。これまでの調査において修理点検に期間を要すると判断したことから、当初予定していた6月上旬の同冷却系の停止運用期間を延長。

8/25 予定していたクローラクレーンの年次点検にあわせて、不具合箇所の修理が完了したことから、8/25 から当該作業を再開することとした。作業の再開に伴い、燃料交換機撤去対象機器に残存している油が使用済燃料プール代替冷却系に混入することを防止するため、8/25～10月中旬(予定)の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00、当該冷却系を停止する(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 は運転予定)。なお、冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 28.4°C、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.114°C/h で、停止中のプール水温上昇は約 15°C と評価されることから、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。また、水温は運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った 45°C を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

< 作業実績 >

8/25 5:50 冷却系停止(停止時温度:28.4°C)

【4号機】

・8/25 4:53～ 使用済燃料プール代替冷却系について、当該系の循環冷却設備一次系フレキシブルチューブの交換等を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:27.3°C)。停止期間は約 60 時間を予定しており、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.266°C/h であることから、停止中のプール水温上昇は約 16°C と評価。運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→	3号機タービン建屋	8/21 19:13～ 移送停止中
3号機	3号機タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/19 16:18 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (8/25 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/8/22 共用プール建屋地下1階ユーティリティ配管取合エリアの配管貫通部から水が流入していることを7/3 11:10頃、当社社員が発見。当該エリアの配管貫通口から流入した水は、床面に設置されている排水口に連続で排水されているため、建屋外への流出はない。
その後、8/22 同エリアにおける水の流入箇所の止水処理が完了。当該エリアについては、配管貫通部2箇所から水の流入を確認したため、当該2箇所について、モルタルによる止水処理を実施。また、同エリア内の同様な配管貫通部についても水の流入が考えられることから、今回流入した2箇所を含め11箇所について、モルタルによる止水処理を実施。
- ・H26/8/23 構内汐見坂から3号機タービン建屋に向かう路上に、車両から漏れいした油と思われる滴下跡があることを協力企業作業員が確認。その後、16:02に一般回線にて双葉消防本部へ連絡。現場調査の結果、油と思われる滴下があった範囲は、汐見坂を上った先のNo.2ろ過水タンクから3号機タービン建屋までの路上に点在しており、当該箇所については吸着剤の散布を実施。引き続き当該車両の特定作業を行っていく。
- ・H26/8/24 2号機海水配管トレンチ立坑Aの水位計の測定値に急上昇を確認。そのため、現場にて立坑Aの水位を測定したところ、立坑Cおよび2号機タービン建屋の水位計による測定値と大きな差がないことを確認。以上のことから、立坑Aの水位計の故障と判断。今後、2号機海水配管トレンチ立坑の水位は立坑Cに設置している水位計にて管理していく。
- ・H26/8/26 物揚場復旧工事において、1～4号機取水路開渠に係留されている揚錨船を港湾内に移動することから、1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスを2回開閉する予定。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日 8/13]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、8/24 10:00から海洋への排水を開始。同日 10:16 漏れい等の異常がないことを確認。同日 18:54 排水を停止。排水停止状態に異常がないことを確認。なお、排水量は2,203m³。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【1～4号機サブドレン観測井の状況】

1～4号機建屋に隣接している井戸(サブドレンピット)の浄化試験をした結果、ピット内の溜まり水から放射性物質が検出されており、その流入経路としてフォールアウトの可能性があることから、新たに1～4号機建屋周辺に観測井を設置し、フォールアウトの影響について確認することとしている。

- ・ H26/8/21 に3号機建屋山側サブドレン(N10)にて採取した水の分析結果は、セシウム 134 が検出限界値未満(検出限界値:0.62 Bq/L)、セシウム 137 が 2.4 Bq/L、全ベータ放射能濃度は検出限界値未満(検出限界値:15 Bq/L)、トリチウム値は 60 Bq/L。引き続き監視を継続する。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上